

## 第一回 民博若手研究会 記録

実施日時：2011年11月12日（土） 午後1時半から5時

場所：第6セミナー室

出席者：足立、飯島、市川、大川、奈倉、比留間、渡会

記録：奈倉

### ◆ 趣旨説明（奈倉）、問題提起（大川）の発表内容について出された意見

- ・「帰還移民」は地域によって捉え方が異なるので、各自が調査対象としている地域でどのように使用されているかを報告し合う必要がある。エスニシティを基準にしているのか？法的カテゴリーが存在するのか？どのレベルで「帰還」と言えるのか？ネガティブかポジティブか？両義的な概念か？日本の「引揚者」との比較も視野に入れてはどうか？
  - ・「帰還移民」をトランスナショナルな移民とは区別すると言っているが、トランスナショナルな移民の下部に存在する存在ではないか？
  - ・「故郷」の用語についてももっとこだわる必要がある。
  - ・「帝国」を人類学的に切り込むには？これまで植民地/非植民地、支配者/非支配者、の二項対立的に捉えられてきた。これは逆転する場合もある。でもストーリーは「帝国」という概念を使ってこれを批判的に捉えている。
  - ・「生活世界」について、従来の研究は、「帰還」までの経験・プロセスで終わってしまっており、その後の彼らがつくり上げてきた文化実践、食文化、ネットワークなどの考察は手薄になってきた。本研究会では、「帰還」後の当事者が日常生活の日々の実践の中でつくり上げてきた文化やサークルを詳細に描写していく。
    - ・各自が事例の提示のみをするのではなく、自分の事例が他の事例との比較において、全体の中でどのように位置づけられるのかに留意する。
- この「全体」は「帰還」や「故郷」の概念をメンバーでともに検討することで共有できるのではないか？また、名づけ/名乗りの議論があるが、今後、各自の事例報告に入るが、最初に対象地域で「帰還」や「故郷」がどのような言葉で表現されているか、について報告する。

### ◆ 各自の研究紹介、本研究会にどのように貢献できるか

#### 足立（配布資料あり）

- ・フランスの「ピエ・ノワール」（「引揚者」の意味だが、エスニシティを基準にしていない。会話レベルでは「パトレート・アルジェリ」を対象にする。
- ・「ピエ・ノワール」の組織活動について（帰還後の社会空間、生活世界）。「集合的記憶」の「場」。同じ記憶・属性を共有する他の「ピエ・ノワール」の存在を想定した呼びかけ。

自分たちと意思を同じくする、ある「集団」の存在を前提とした名乗り。これにより、「集団」として可視化していく。

- ・「帝国史」と「帰還」、および「植民地」と「故郷」との関係について議論できる。

### 飯島

- ・事例報告として2つテーマから選択できる。

①フィリピン日系人。国籍取得と戦略的「故郷」について議論できる。

②フィリピン生まれの日本人移民の子ども(2世)の引揚げを考察対象とする。多くが沖縄に引揚げた。戦後、彼らと「第二の故郷(フィリピン)」との関わりについて考察する。ポストコロニアリティとの関わりなども視野に入れる。

### 大川 (配布資料あり)

- ・アフリカ系オマーン人(入植型帰還移民)の「帰還」およびその後の実践について。
- ・「帝国」論の再考。これまで「被支配者」対「支配者」、「本国」(中心)対「植民地」(周辺)という二項対立的構図で語られてきたが「帰還移民」の立場から「帝国」概念を再検討する。

### 奈倉

- ・帰国華僑の故郷認識について、帰国華僑のファミリーヒストリーに焦点を当て考察する。今後、元移住先地に留まって生活をしている帰国華僑の家族の調査も行い、中国国内の帰国華僑の家族の関わりから、「故郷」、「帰還」の意味を探っていきたい。

### 比留間

- ・これまでのベトナム地域研究を基礎に、日本のベトナム難民がベトナムへの「帰還」をどう捉えているか、当事者の視点から「帰還」現象をあぶり出す。
- ・移民の「痛み」に注目。
- ・「越僑」と帰国華僑との比較も視野に入れたい。
- ・静岡県浜松市には約100人のベトナム人がいるが、そのうち2人は難民。その2人を考察の対象として考えている。
  - ①ヒップホップ音楽の創作活動を通して、自己表現をする人。
  - ②ベトナムに帰還した女性のライフヒストリー。
- ・但し、「帰還移民」を「定住を伴う」と定義してしまうと報告がしにくい。

### 山田 (奈倉が代行説明)

- ・ドイツ・ベルリンにおける「帰還移民」に関するアソシエーションについて。現在のところ2つに大別できる。

- ①「単一型」(仮)：東方からの帰還移民に限定して、彼らのドイツでの生活にまつわるあらゆる支援と「2つの故郷」の間に暮らす彼らのメンタルの部分をサポートするタイプ。
- ②「混合型」(仮)：より大きな括りで「移民」(帰還移民、アジア系、アラブ系、ユダヤ系等)を対象とし、彼らのドイツ社会への統合をドイツ市民とともに支援するタイプ。
- ・今後、エリアやアソシエーションのタイプを区分して、各タイプのアソシエーションに関わる帰還移民に聞き取りを行っていききたい。

#### 渡会 (配布資料あり)

- ・人種・エスニシティに関心があり、1つの切り口として日系人を考察の対象としてきた。
- ・日本における日系ブラジル人(愛知県)の生活世界(戦術、余暇、将来のヴィジョンなど)の考察を行うことで、本研究の帰還後の生活世界の議論に貢献できそう。

#### 市川 (2012年度からメンバーに加わってもらう)

- ・2008年から2010年までの「人の移動に注目した場所・空間・景観の文化人類学的研究」(若手共同研究)を通して、地域間の対話ができたと収穫だった。華人研究で当たり前のことが他の移民では珍しいことといった発見があった。
- ・パプアニューギニア華人にとっての帰郷にまつわる観念と実践について考察していく。今後、彼ら彼女らの送出地である中国で調査を行い、「故郷」中国の捉え方を探っていきたい。
- ・但し、「帰還移民」を「定住を伴う」と定義してしまうと報告がしにくい。

#### ◆ その他

- ・第二回目は3月末から4月初めの授業が始まる前に行い、各自の地域で「帰還移民」に相当する用語を調べて、発表し合ってはどうか。